

IAMAS

Annual Report

— 2016 —



IAMAS

Annual Report

— 2016 —

Greeting

ごあいさつ

おかげさまでIAMASは2016年に創立20周年を迎えました。この20年間、数え切れないほどたくさんの連携事業に取り組ませていただき御礼申し上げます。一つひとつの連携が今のIAMASの力となり、IAMASの可能性を社会につなげていく機会となっております。2016年度も多くの連携に恵まれましたことを報告できることは嬉しい限りです。

今年は、産業文化研究センターのウェブサイトも開設いたしました。本報告書に加え、よりタイムリーに連携事業をお伝えできるよう努めてまいりますので、ご覧いただければ幸いです。

2017年3月に、創立20周年事業として『Calculated Imagination —IAMASが発信するメディアアート』展を、ラフォーレミュージアム原宿と共催で行います。2016年度にふさわしいIAMAS卒業生との素晴らしい連携事業になると思います。是非、ご高覧くださいませ。

今後とも皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

産業文化研究センター長
金山智子

Contents

目次

Ogaki Mini Maker Faire 2016	4
モチーフワーク「関市工場」	6
可視光通信LIT (Light Information Technology) システムの活用	8
あたらしいTOYプロジェクト	10
展覧会「人・音・織・機」	12
アートまるケット「ながれミながら」	14
デジタル工作機器を利用した公開講座の開催	16
地獄絵スタンプラリー	18
2016年度連携事例及びIAMAS関連イベント 全リスト	20



IAMAS Annual Report 2016

連携先

Ogaki Mini Maker Faire 2016実行委員会
株式会社オライリー・ジャパン

プロジェクト名

Ogaki Mini Maker Faire 2016

連携場所

ソフトピアジャパン・センタービル

担当教員

小林茂教授
八嶋有司研究員

協力者

[会場設計] 廣瀬周士
[デザイン] 大山千尋

参加学生

[運営スタッフ]
岡崎友恵
北詰和徳
後藤良太
佐野和哉
嶋田元菜妃
杉山雄哉
丹羽彩乃
[記録] 小濱史雄

連携期間

2016年1月 - 2017年3月

Ogaki Mini Maker Faire 2016

プロジェクトの目的

Ogaki Mini Maker Faire 2016は、岐阜県大垣市のソフトピアジャパン地区において2016年12月3日から2日間に渡って開催したDIYの祭典で、全国から集まった様々な分野のつくり手「Maker (メイカー)」たち146組(約300名)と約6,000名の来場者が参加した。出展者の分野は、電子工作やロボット、クラフト、ペーパークラフト、電子楽器、サイエンス工作、リサイクル/アップサイクルなど多岐に渡った。個人や教育機関、企業などで多様な立場のMakerたちがつくったものを見せ、語り、その楽しさを共有する機会をイベントとして提供することで、将来的に文化を醸成することにつながる人々のコミュニティをつくることを目的に2010年から隔年で開催している。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2010年から隔年で開催してきたMini Maker Faireの継続的な開催を検討し、IAMASとして開催すべきであるという判断に至ったため、日本国内でのMaker Faireライセンス元であるオライリー・ジャパンに開催の意志を伝えた。

2 プロジェクトの具体的な進め方(スケジュール)

2016年1月: オライリー・ジャパンとミーティング

4月: 実行委員会発足に向けての準備

5月: 第1回実行委員会開催

9月: 出展者募集開始

10月: 第2回実行委員会開催

11月: 関連イベント開催

12月: Ogaki Mini Maker Faire 2016開催

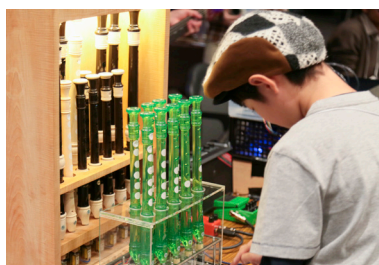
2017年3月: 第3回実行委員会開催(予定)

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

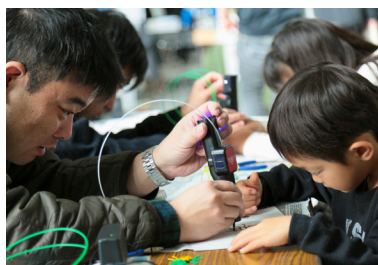
実行委員会の中心的な存在として、産業文化研究センターと事務局で企画から運営までを担当した。



展示の様子



展示の様子



ワークショップの様子



ファブ施設を特集した展示スペースの様子



前日に開催したトークセッションの様子

連携の成果

多数の出展者と来場者が参加し、多様な分野の展示やワークショップを通じて交流する機会を提供でき、地方開催ならではのMaker Faireの姿を提示できた。また、開催の様子が様々なメディアで報じられた。

参加教員のコメント

次回開催するのであれば、単発のイベントで終わらず開始前から大垣を中心としたMakerのコミュニティをつくれるような仕掛けを試みたい。また、活動が根付いて文化になるところまで長期的な展望で取り組みたい。





IAMAS Annual Report 2016

連携先

協同印刷株式会社
丸章工業株式会社
有限会社エドランド工業
株式会社杉山製作所
長谷川刃物株式会社
村澤一晃(関の工場参観日プロデューサー)
関の工場参観日実行委員会

プロジェクト名

モチーフワーク「関市工場」

連携場所

情報科学芸術大学院大学
有限会社エドランド工業
関工場参観日インフォメーション会場

担当教員

金山智子教授
小林茂教授
平林真実教授
吉田茂樹教授

参加学生

修士1年生全員

連携期間

2016年2月 - 2016年8月

モチーフワーク「関市工場」

プロジェクトの目的

関市の工場5社と連携し、工場の新たな可能性を提案する授業を実施した。工場見学で現状を把握してから、既存の枠に捉われない工場の新たな可能性を見出したものを提案としてまとめ、最終発表では工場関係者の方々に前に具体的なアイデアや試作品など各チームが発表した。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

3年目となる関の工場参観日イベントにおいて本学と連携できないかとプロデューサーの村澤一晃氏より相談を受けたことがきっかけとなり、授業(モチーフワーク後半)で関市の工場と連携することになった。

2 プロジェクトの具体的な進め方(スケジュール)

2016年2 - 3月: 企画立案

4月: 調整と準備

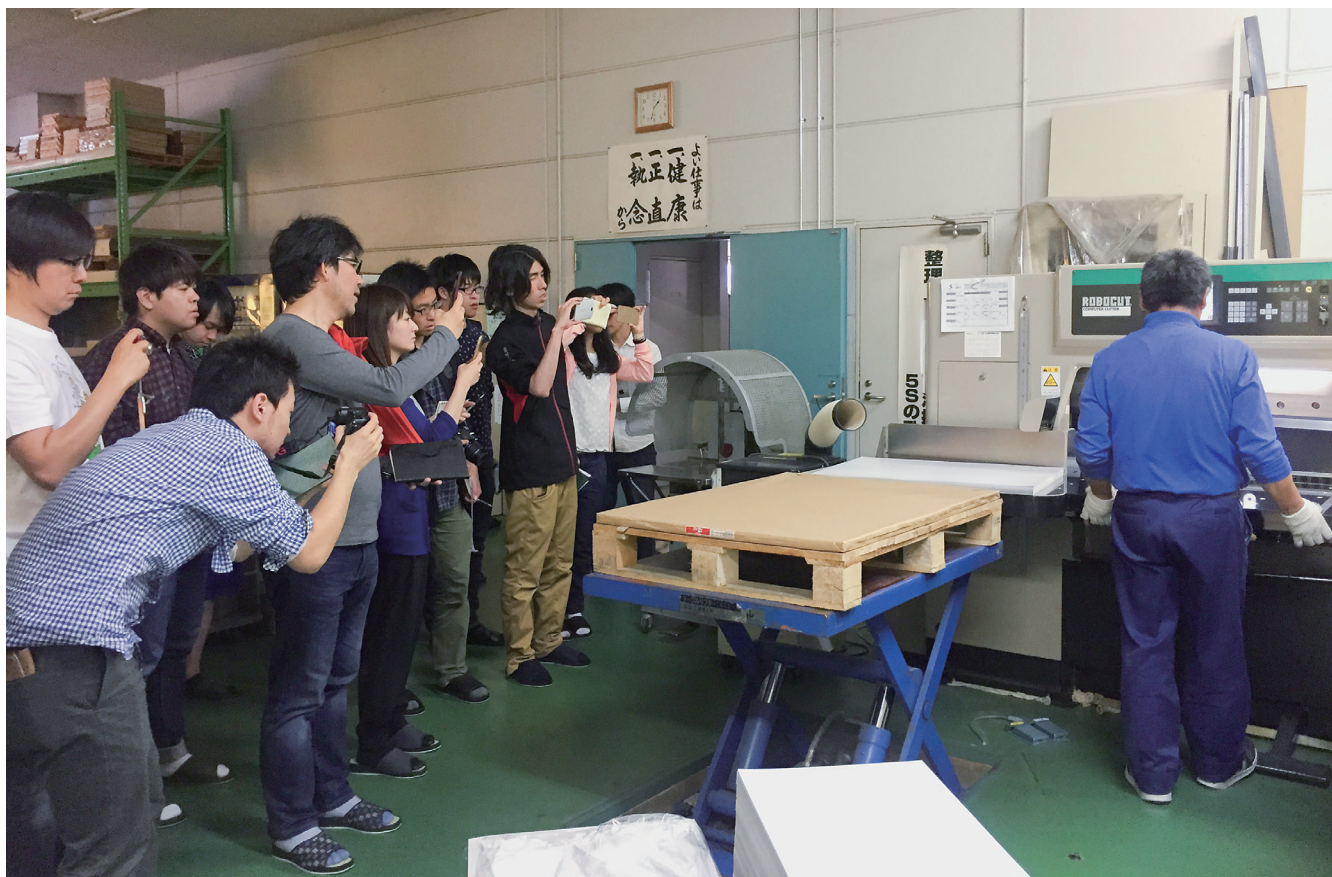
5月: モチーフワーク実施(工場見学、関係者セミナー、工場関係者参加の講習会)

7月: 関の工場参観日特別企画「伊東豊雄氏セミナー」参加 / オープンハウス展示

8月: 関の工場参観日にて展示

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

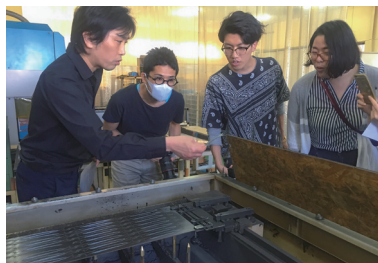
複数の工場との授業における連携の企画、学内調整、連携先とのコミュニケーション、実施のための準備、実施、成果展示と、ほぼ全てのプロジェクトを中心的に実施した。



協同印刷での見学の様子



長谷川刃物での見学の様子



丸章工業での見学の様子



講演会には見学先の工場関係者も参加



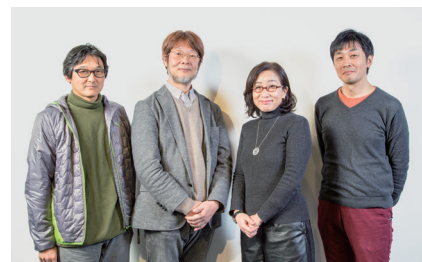
エドランド工業を会場にした伊東豊雄氏のセミナーで成果の一部を披露

連携の成果

一週間という短期間ではあったが、企業の直面する課題解決のためのアプローチとは異なる、これまでにないような工場の新しい可能性について、さまざまなアイデアを工場に提示できたと思う。

参加教員のコメント

授業目的を維持しながら企業とどのように連携するか、短期間でどのような成果をだせるのか、本学のような新しい提案について企業がどう反応するかといった点について、挑戦的な試みであった。





IAMAS

Annual Report

2016

連携先

(株) GOCCO.

プロジェクト名

可視光通信 LIT (Light Information Technology) システムの活用

連携場所

中国の LED 製造メーカー (LIT 電球)
グランフロント大阪ミニフューチャーシティ
(ワークショップ)
サントリー 山崎蒸溜所・ウイスキー館
(音声ガイダンスシステム)

担当教員

小林孝浩教授

連携期間

2016年度

可視光通信 LIT (Light Information Technology) システムの活用

プロジェクトの目的

LIT は可視光を利用した通信システムであり、特にスマートフォンのカメラを使用し高速にコード受信が可能な技術である。ここでは、2013年度に共同開発した LIT システムを活用し製品やサービスに展開することを目的とし、そのためのシステム改良を行った。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

LIT 活用にあたり (株) GOCCO. から、コードの情報量や信頼性の向上を相談された。

2 プロジェクトの具体的な進め方 (スケジュール)

案件ごとに随時、基本的にはメールベースで情報交換し進めた。実験などは IAMAS で集まって実施した。

3 IAMAS はプロジェクトにどう関わったか

送信部の小型化、コードの改善、検証方法をアドバイスした。特に、情報量を増加させつつエラーを高精度に検出する処理方法と、信号の生成復号のためのコンパクトな変換方法を考案した。



参加者のID認証としてLITシステムを活用 (ミニフューチャーシティ)



LIT機能を持った電球の試作機



映写機タイプの装置から動画のIDを送信し、iPhoneで当該動画を再生

連携の成果

具体的なLED電球を試作したり、ワークショップ企画と絡めた運用など、幅広いサービスに使用することができた。

参加教員のコメント

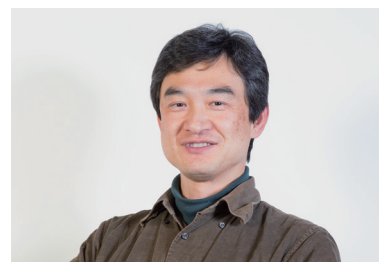
それぞれの持つ強みの相乗効果が現れたものと思う。今後のさらなる応用にも期待したい。



ワークショップ会場の雰囲気 (ミニフューチャーシティ)



各展示品の前にLITシステムを設置 (サントリー山崎蒸溜所)





IAMAS Annual Report 2016

連携先

岐阜市科学館

プロジェクト名

あたらしいTOYプロジェクト

連携場所

岐阜市科学館

担当教員

クワクボリョウタ准教授

参加学生

岡崎友恵
具志堅裕介
宮野有史

連携期間

2016年6月 - 8月

あたらしいTOYプロジェクト

プロジェクトの目的

普段あまり意識することのない、私たちの知覚や認識の中にこそ不思議な出来事が潜んでいる。それは最新のテクノロジーの魔法によって流し込まれる不思議さとは違って、私たちの見かたや見えかたそのものに宿り、私たちが自ら醸し出す不思議さである。そうした共通の認識のもとで、あたらしいTOYプロジェクトに参加する学生を中心に各自のテーマに沿った作品を出品した。

科学館を訪れる子どもたちを対象にした展示であるという事情を活かし、専門的な文脈の上に立脚したアート作品の受容に伴いがちな難しさ・分からなさを一旦排除して、各自のテーマやプレゼンテーションを明晰化することを指標とし、作品制作・発表を行った。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

岐阜市科学館から夏のイベント（『チームラボアイランド - 学ぶ! 未来の遊園地 - in 岐阜』）の共催企画の提案を受けた。多数の来場者が見込まれ、最新のテクノロジーを駆使した展示を体験するであろう来場者に、本プロジェクトの学生作品へフィードバックをいただく良い機会であると考えた。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2016年6月：展示の提案を受ける
7月：展示作品の制作
8月：展示

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

展示企画の提案を行い、出品作品の制作、会場構成、設営を行った。



「みかた・みえかた展」展示風景

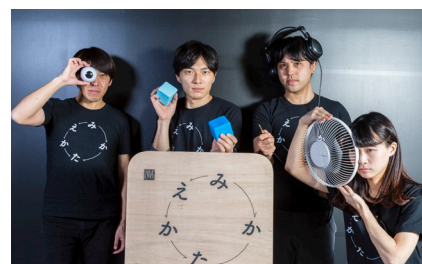
週末のみの開催だが、
連日大勢の来場者に恵まれた「あっちとこっち」岡崎友恵
モニターのこちら側とあちら側の関係を考える「みきき、ききみみ」具志堅裕介
同じ言葉を聞き続けるうちに聞こえ方が変わる「手でみるシカク」宮野有史
手で持った感覚だけで中身を見極める

連携の成果

開催日延べ8日間で13,000人もの来場者があった。来場者には積極的に作品を体験していただいた。出品学生は各自のテーマやプレゼンテーションに対し重要なフィードバックを得て修士作品の制作に活かした。

参加教員のコメント

参加学生それぞれが、各自の研究テーマをできるだけ明晰にプレゼンテーションしようと試みることで、人に分かりやすく伝える方法の難しさを実感するとともに、アイデアの伝達の価値を知る機会となった。





IAMAS
Annual Report
2016

連携先

STENPORT
nakaniwa

プロジェクト名

展覧会「人・音・織・機」

連携場所

岐阜市住ノ江町
岐阜市吉野町

担当教員

前林明次教授
瀬川晃准教授

協力者

八嶋有司研究員
末松グニエ 文 (写真家)
伊藤悟 (人類学者、日本学術振興会特別研究員)

連携期間

2016年5月 - 2016年12月

展覧会「人・音・織・機」

プロジェクトの目的

「これからの創造のためのプラットフォーム」では2014年4月からアート、デザイン、思想、暮らし等の様々な領域の実践者を招きレクチャー・シリーズを開催し、ウェブにおいて記録を発信している。2016年は3回のレクチャーと展覧会「人・音・織・機」を開催した。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

「これからの創造のためのプラットフォーム」においてレクチャー・シリーズを開催する中で、地域のコミュニティと、そこを拠点に独自の視点で活動する作家たちとのネットワークが生れた。そのような流れの中でギャラリーSTENPORTとも交流が始まり、展覧会企画の打診を受けた。

2 プロジェクトの具体的な進め方 (スケジュール)

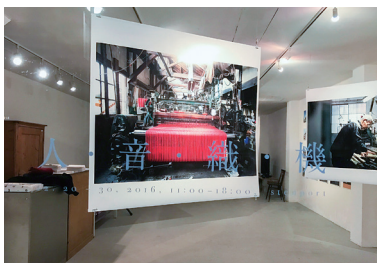
2016年 5月：STENPORTでの展覧会の打診を受ける
6月 - 8月：工場の視察、作家との打ち合わせ、企画検討
9月：関連イベントの企画、ゲスト出演依頼
10月 - 11月：作品制作、展示プランの決定、イベント内容確認
12月：展覧会実施

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

展覧会の企画と運営、作品制作および、展示デザインと設営、トークイベントとライブの企画、運営をおこなった。記録は写真、映像、テキストによってまとめWEB上で発信する。



映像+音によるインスタレーション作品

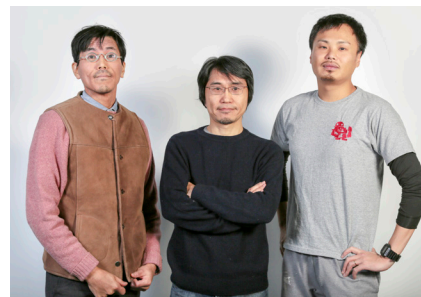
「人・音・織・機」展、
会場STENPORT入り口風景末松グニエ文(写真家)による
アーティスト・トーク伊藤悟(人類学者)による音を奏でる
織機の実演映像インスタレーション作品の
取材・制作風景

連携の成果

展覧会およびライブイベント、トークイベントには多数の来場者があった。ゲスト作家のネットワークや、岐阜市のSTENPORT、nakaniwaとの連携により、これまでに接触する機会がなかった幅広い層にテーマをアピールすることができた。

参加教員のコメント

「織機」のもつ奥深さや面白さ、さらには地域産業が抱える課題を、映像インスタレーション、音響、写真、トークイベント、ライブ演奏によって、現代的かつ多角的に捉えることができた。





IAMAS
Annual Report
2016

連携先

岐阜県美術館
国際園芸アカデミー
国際たくみアカデミー
森林文化アカデミー

プロジェクト名

アートまるケット「ながれミながら」

連携場所

県美術館（館内及び庭園）

担当教員

金山智子教授
八嶋有司研究員

参加学生

竹村望
ギン・イーギョン

連携期間

2016年2月 - 10月

アートまるケット「ながれミながら」

プロジェクトの目的

2015年より始まった岐阜県美術館庭園の特別企画展「アートまるケット」の2年目。「ながれミながら」というテーマで2016年7月より9月まで実施された。昨年同様、国際園芸アカデミー、国際たくみアカデミー、森林文化アカデミーという岐阜県立アカデミー3校と共に制作協力した。本学は表現に関わる展示やワークショップの企画と実施を行なった。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2015年にアートまるケットのディレクターであり、県美術館の日比野克彦館長から本学への制作協力が始まり。各校が得意とする分野において協力する中、本学は表現に関する企画運営を実施した。今年は2年目として、アカデミー3校の教員らと共に企画に携わった。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

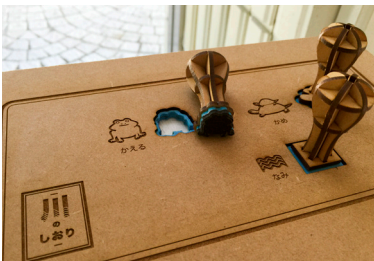
2016年2月 - 4月：4校の教員と日比野克彦氏による企画打合せ
5月 - 7月：企画の決定と制作
7月 - 9月：設営と展示、ワークショップの実施

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

今年は、昨年人気の高かったオリジナルのスタンプラリー制作と、庭園内の川を使った子ども向けワークショップ「はしハシ、かけカケ」を学生有志と教員で行なった。



ワークショップ「はしハシ、かけカケ」



館内4箇所を設置されたスタンプラリーは今年も人気



川の中に立てる旗に思いおみの絵を書く



アクリル板を使ってカラフルな橋を作る



子どもたちは川に入って橋を掛けたり、旗を立てたり

連携の成果

公共施設における展示やワークショップは、学生にとってとても貴重な経験となった。同時に、本学の表現活動に対する反応を来場者や参加者から直接理解することができたのも有意義だった。

参加教員のコメント

アートまるケットも2年目となり、各アカデミー教員や県美術館スタッフとのコミュニケーションも良好で、スムーズな連携を実施でき楽しい経験となった。





IAMAS

Annual Report

2016

連携先

おむすび博
(主催：大垣市、主管：おむすび博プロジェクト)

プロジェクト名

デジタル工作機器を利用した
公開講座の開催

連携場所

イノベーション工房
f.Labo

担当教員

高見知里 技術支援専門職
高尾俊介 研究員

協力者

[2012年]
笠原友美、高見知里、新山紗緒里

[2013年]
山下健、高見知里、小牧美貴子

[2014年]
高見知里

[2015年]
高見知里、高尾俊介

[2016年]
高見知里、高尾俊介

連携期間

2012年 - 2016年

デジタル工作機器を利用した 公開講座の開催

プロジェクトの目的

イノベーション工房は、2012年2月ITとものづくりの交流拠点として開設した市民工房「f.Labo」としてスタートし、2013年より名称を「IAMAS イノベーション工房」に改めた。現在は学内で生まれた研究成果を産学官連携や文化活動を通して広く社会に貢献することを目的とした附置機関である産業文化研究センター [RCIC] の一部として、デジタル工作機器を活用した研究活動を行っている。

公開講座は、デジタルファブリケーションの豊かな可能性を伝えるとともに、参加者が本学の研究活動に触れるきっかけとなることを目的に開催している。5回目の開催となる今回は、デジタルデータをもとに刃物で紙などの薄い素材を切断する工作機器であるカッティングプロッターを利用し、布地や木材に印刷する「シルクスクリーン」という手法を体験する講座を実施した。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

大垣の地域資源をテーマにした参加型体験講座の博覧会「おむすび博」は2011年に始まり、主催講座のほか、市民活動団体が独自のプログラムを提供するパートナー講座がある。イノベーション工房は2012年よりパートナー講座に参加している。

2 プロジェクトの具体的な進め方 (スケジュール)

2012年	11月3日：レーザー彫刻し柁ワークショップ
2013年	10月19日・20日：スツールをつくらう
2014年	11月9日：自分のしるしスタンプづくり
2015年	11月8日：みんなで作る不思議なバッジ
2016年	10月22日：みんなで作る不思議なTシャツ
2016年	8月上旬：講座内容の検討
	9月 - 10月：実施内容試作・検討・準備
	10月上旬：広報・参加者募集開始
	10月22日：イベント実施

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

レーザー加工機やカッティングプロッターといったデジタル工作機器を利用した講座の企画、運営を行った。講座は、はじめてデジタル工作機器を利用する人でも、機器の特徴やデータ作成方法がわかるような内容とした。



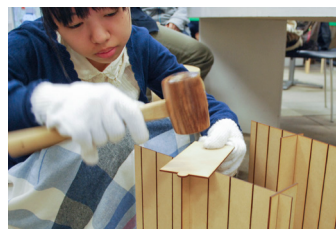
みんなで作る不思議なTシャツ (2016) カuttingプロッターによるスクリーン製作



みんなで作る不思議なTシャツ (2016) シルクスクリーンで重ね刷りをしたTシャツ



レーザー彫刻し柀ワークショップ (2012) iPadで描いたイラストをレーザー加工機で彫刻加工した



スツールをつくろう (2013) 3Dモデリングによる形状を2Dの展開図に変換してオリジナルのスツールの制作



自分のしるしスタンプづくり (2014) PCを使ってシンプルな図形でオリジナル図柄をつくり、スタンプを制作



みんなで作る不思議なバッジ (2015) カラフルな板作りの様子



みんなで作る不思議なバッジ (2015) レーザー加工機で切り出したバッジ

連携の成果

講座内容をもとにものづくりをはじめる人も出現し、デジタルファブリケーションの面白さを伝えることができた。また、おむすび博の広報によって本学の活動を周知するきっかけになっている。

参加教員のコメント

数年にわたり講座へ参加している参加者が、自主的にスタッフとしての役割を担ってくれるという事象があった。新たな活動として、講座企画の段階から関わられるような方法も検討していきたい。





IAMAS

Annual Report

2016

連携先

揖斐川ワンダーピクニック実行委員会
浄土宗一心寺
三輪神社
北野神社
秋葉神社

プロジェクト名

地獄絵スタンプラリー

連携場所

揖斐郡揖斐川町

担当教員

金山智子教授
高尾俊介研究員
高見知里技術支援専門職

協力者

[イラストレーション] 大山千尋

参加学生

[サウンドデザイン] 具志堅裕介
[運営スタッフ]
後藤良太
竹村望
キム・イギョン

連携期間

2015年度 - 2016年度

地獄絵スタンプラリー

プロジェクトの目的

2016年5月、揖斐川町で行われる複合型タウンフェスティバル「揖斐川ワンダーピクニック」内で第2回となる「地獄絵スタンプラリー」を実施した。2015年度からの継続となるこの取り組みでは、地域に眠る文化資源としての地獄絵と、その拝観の風習が失われつつある点に着目した。スタンプラリーの参加者はチェックポイントを巡りながらスタンプを収集することで、地獄絵に描かれている光景の解説を読むことができる。また当日はスタンプラリーのゴールである一心寺に実物の地獄絵を展示することで、拝観の風習をスタンプラリーの形式の中でなぞった。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2014年10月に揖斐川ワンダーピクニックの実行委員会のメンバーである揖斐川町住民から相談を受けたことから連携が始まった。2015年5月に行った第1回目のスタンプラリーが好評を得たため、イベント実施後双方で協議し、2016年度も継続して連携することとなった。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2015年 11月：連携に関する打合せ
2016年 4月：電子工作部分プロトタイプ制作
5月上旬：地獄絵下見、展示台試作
5月中旬：展示台制作、絵馬試作、スタンプ制作
5月下旬：配布用絵馬制作
5月29日：イベント実施
7月24日 - 25日：研究成果の展示（於：IAMAS オープンハウス2016）
9月4日：口頭発表（於：地域活性学会）
11月28日：小川科学技術財団助成金贈呈式（研究名：地域資源を活用したIoTスタンプラリーツールキットの開発）

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

スタンプラリーに関する企画制作の全般を行った。地獄絵の監修については一心寺住職の竹中純瑜氏に依頼した。



スタンプ押下時に、地獄での拷問の様子をイメージしたサウンドが再生される



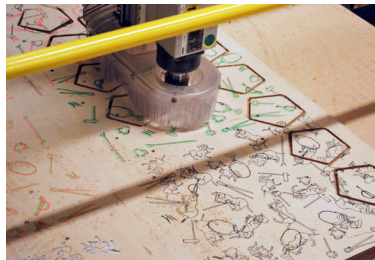
三輪神社に訪れた多くの参拝客



チェックポイントに設置されたスタンプ台



一心寺で地獄絵を拝観する参加者



3D切削加工機による特製絵馬の制作

連携の成果

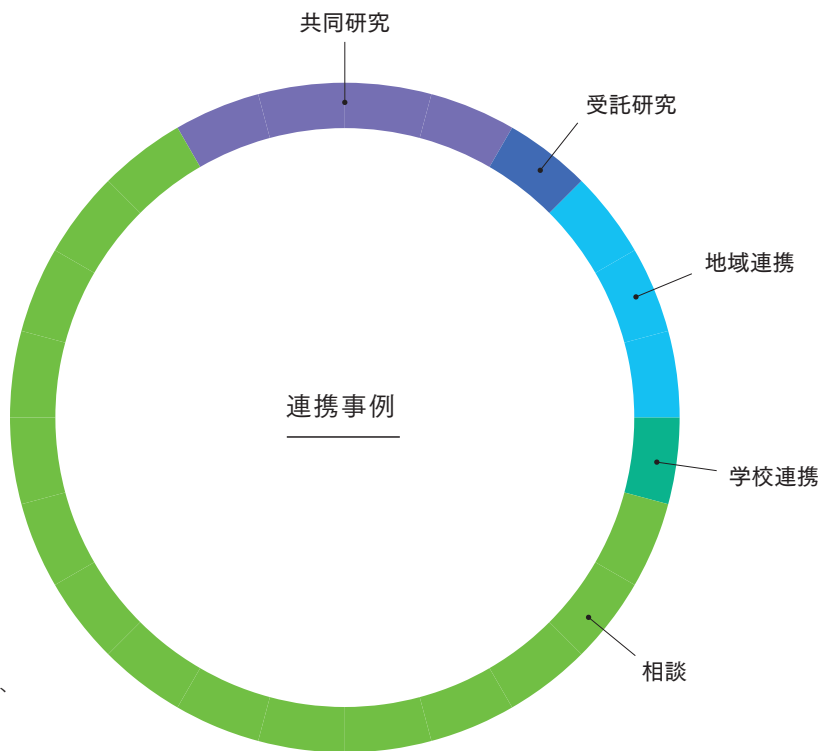
イベントには2万人が来場し、スタンプラリーには750人が参加した。その後、研究内容の口頭発表を行った他、競争的資金を獲得するなど、イベントで得た知見や実績を展開させて新たな成果を生み出すことができた。

参加教員のコメント

前年度に作成したスタンプラリー実施のための基本的な枠組みに、新たにサウンドデザインやインタラクションなど機能を追加することができた。

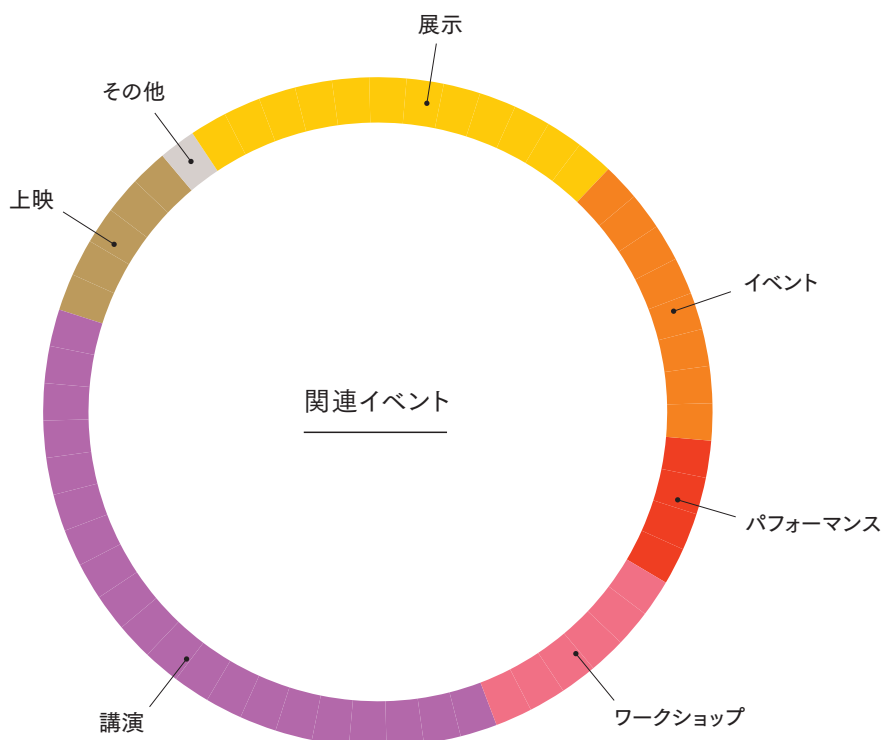


2016年度連携事例 及びIAMAS関連イベント 全リスト



共同研究：
民間企業等の研究者と本学の教員が、
共通の課題に対して対等な関係で行う研究

地域連携：
岐阜県内の企業や NPO 法人等の団体と本学の教員が、
地域の課題解決を目的として連携した事例



2016年度 連携事例

No.	区分	名称	企業名/組織名	場所	担当教員等
1	共同研究	「防災」～災害時の安心安全の提供	パナソニック(株)	岐阜県大垣市	鈴木宣也教授 赤羽享准教授
2	共同研究	アイシン精機イノベーションセンターとの共同研究	アイシン精機(株)	岐阜県大垣市	鈴木宣也教授 赤羽享准教授
3	共同研究	根尾コ・クリエイション(根尾地区における共創手法を通じた地域再生の研究)	グレイセル(株) (株)TAB	岐阜県本巣市	金山智子教授 小林孝浩教授 James Gibson 准教授
4	共同研究	デジタルテクノロジーを活用した地域社会の課題解決	(株)電通	岐阜県大垣市 東京都港区	小林茂教授
5	受託研究	平成28年度文化庁メディア芸術所蔵情報等整備事業における調査・研究	凸版印刷(株)	岐阜県大垣市	松井茂准教授 伊村靖子講師
6	地域連携	「岐阜・風景映画」プロジェクト 2016	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜	岐阜県大垣市	前田真二郎教授
7	地域連携	地獄絵スタンプラリー vol.2	揖斐川ワンダーピクニック実行委員会	岐阜県揖斐郡	金山智子教授 高尾俊介研究員 高見知里技術支援専門職
8	地域連携	御嵩あかでんランド	御嵩町 (特非)イシュープラスデザイン (株)博報堂	岐阜県可児郡	金山智子教授 高尾俊介研究員
9	学校連携	「デジタルファブリケーションの導入」森林・木材の分野での活用方法を探るためのデジタルファブリケーションに関する講義と講習	岐阜県立森林文化アカデミー	岐阜県大垣市	小林茂教授 高見知里技術支援専門職
10	相談	春日井駅前での情報掲示システムに関する相談	(公財)かすがい市民文化財団	岐阜県大垣市	瀬川晃准教授
11	相談	第3回京都大学・稲盛財団合同京都賞シンポジウムのデザインに関する相談	京都大学	京都府京都市	瀬川晃准教授
12	相談	スイトピアセンター企画展デザインに関する相談	(公財)大垣市文化事業団	岐阜県大垣市	瀬川晃准教授
11	相談	大学と美術館の共同企画展に関する相談	ラフォーレミュージアム原宿	岐阜県大垣市	金山智子教授 北村茂範(教務課) 高尾俊介研究員
14	相談	岐阜市科学館での企画展示に関する相談	岐阜市科学館	岐阜県岐阜市	クワクボリョウタ准教授 北村茂範(教務課) 高尾俊介研究員
15	相談	CGデザイナーに関する相談	(株)ドリームライト	岐阜県大垣市	北村茂範(教務課) 高尾俊介研究員
16	相談	池田町での連携に関する相談	池田町青年のつどい協議会	岐阜県大垣市	北村茂範(教務課) 高尾俊介研究員
17	相談	大垣市Webサイト構築に関する相談	グレートインフォメーションネットワーク(株)	岐阜県大垣市	前田真二郎教授
18	相談	子ども向け教育に関する連携相談	大垣市	岐阜県大垣市	吉田茂樹教授 金山智子教授
19	相談	恵那地区の廃校舎の活用に関する相談	(一財)岐阜県市町村行政情報センター	岐阜県大垣市	北村茂範(教務課) 高尾俊介研究員
20	相談	社会貢献に寄与するようなプロダクトの開発に関する連携相談	(株)大広	大阪府大阪市	金山智子教授 北村茂範(教務課)
21	相談	地域産業との連携に関する相談	貝印(株) (株)マガジンハウス	岐阜県大垣市	金山智子教授 北村茂範(教務課) 高尾俊介研究員
22	相談	スイトピアセンター企画展関連ワークショップ実施に関する相談	(公財)大垣市文化事業団	岐阜県大垣市	高尾俊介研究員
23	相談	URの活用に関する相談	岐阜県住宅供給公社	岐阜県大垣市	金山智子教授
24	相談	スイトピアセンター館内配布リーフレットに関する相談	(公財)大垣市文化事業団	岐阜県大垣市	瀬川晃准教授 高尾俊介研究員

2016年度 IAMAS 関連イベント

No.	区分	名称	イベント実施日	場所	担当教員等
1	展示	DEEP SHIGA	2016年4月10日	岐阜県大垣市	James Gibson 准教授
2	展示	光波:視覚	2016年6月4日 - 7月3日	東京都江東区	クワクポリョウタ准教授
3	展示	復興まちづくり情報交流館での展示	2016年6月4日 - 2017年3月31日	宮城県石巻市	鈴木宣也教授
4	展示	Found: side B	2016年7月7日 - 8月14日	岐阜県岐阜市	松井茂准教授
5	展示	みかた・みえかた展	2016年8月6日 - 8月28日	岐阜県岐阜市	金山智子教授 クワクポリョウタ准教授
6	展示	クワクポリョウタ展—見ることを見る	2016年7月31日 - 9月4日	栃木県宇都宮市	クワクポリョウタ准教授
7	展示	文化庁メディア芸術際広島展	2016年8月13日 - 9月2日	広島県広島市	クワクポリョウタ准教授
8	展示	IAMAS WORKS 2016	2016年9月2日 - 10月2日	岐阜県大垣市	安藤泰彦教授
9	展示	展覧会「映像のあたり」	2016年10月8日 - 10月9日	岐阜県大垣市	前田真二郎教授
10	展示	これからの創造のためのプラットフォーム [第15回] 人・音・織・機	2016年12月20日 - 12月30日	岐阜県岐阜市	前林明次教授 瀬川晃准教授 八嶋有司研究員
11	展示	KOSUGI + ANDO Sleepless Babies —眠れぬ子らのために	2017年1月14日 - 1月28日	京都府京都市	安藤泰彦教授
12	展示	Calculated Imagination —IAMASが発信するメディアアート展	2017年3月10日 - 3月16日	東京都原宿区	伊村靖子講師 クワクポリョウタ准教授 安藤泰彦教授 赤羽亨准教授 高尾俊介研究員 北村茂範(教務課)
13	イベント	ねお市@ねおこ座	2016年7月23日 - 7月24日	岐阜県本巣市	金山智子教授 James Gibson 准教授 小林孝浩教授
14	イベント	アートまるケット「ながれミながら」	2016年7月16日 - 9月25日	岐阜県岐阜市	金山智子教授
15	イベント	御嵩あかでんランド	2016年9月24日 - 9月25日	岐阜県可児郡御嵩町	金山智子教授 高尾俊介研究員
16	イベント	Ogaki Mini Maker Faire 2016	2016年12月3日 - 12月4日	岐阜県大垣市	小林茂教授 八嶋有司研究員
17	イベント	第5回 展開図武道会〜この椅子いっすね!	2016年12月3日 - 12月4日	岐阜県大垣市	小林茂教授 高見知里技術支援専門職 山下健研究補助員
18	イベント	CLUB TRAIN 2016	2016年12月17日	大垣駅 - 樽見駅間往復	平林真実教授 金山智子教授
19	イベント	Ogaki Mini Maker Faire Special — Fab Meetup Kyoto 特別編	2016年11月23日	京都府京都市	小林茂教授
20	イベント	Club360	2016年10月22日 - 10月23日	岐阜県大垣市	平林真実教授
21	パフォーマンス	関の工場参観日 特別企画 IAMAS エドランド工業	2016年7月25日	岐阜県関市	金山智子教授 平林真実教授 小林茂教授 吉田茂樹教授
22	パフォーマンス	今村俊博×池田萌 第4回パフォーマンス・デュオ公演 特別編《続・「祝祭」から「内省」へ》	2016年9月2日 2016年9月24日	東京都杉並区 愛知県長久手市	三輪眞弘教授
	パフォーマンス	五感で感じる和の文化事業 創生劇場 「やわらかながら」	2016年11月26日	京都市左京区	小林昌廣教授
24	パフォーマンス	伊東信宏 企画・構成 レクチャーコンサート 声のような音/音のような声 三輪眞弘作品集	2016年12月25日	大阪府大阪市	三輪眞弘教授
25	ワークショップ	Field Hack ONAGAWA	2016年4月22日、5月7日、5月8日、 5月29日	東京都港区 宮城県牡鹿郡女川町	小林茂教授 星卓哉情報支援専門職
26	ワークショップ	Summer Camp "Hack the World"	2016年8月10日 - 8月16日	岐阜県大垣市	小林茂教授 金山智子教授 小林孝浩教授 James Gibson 准教授 クワクポリョウタ准教授 高尾俊介研究員 高見知里技術支援専門職 山下健研究補助員

No.	区分	名称	イベント実施日	場所	担当教員等
27	ワークショップ	あいちワークショップギャザリング	2016年8月27日	愛知県名古屋市	鈴木宣也教授 赤羽亨准教授
28	ワークショップ	おおがき体験博「おむすび博」パートナー講座 「みんなで作る不思議なTシャツ」	2016年10月22日	岐阜県大垣市	高尾俊介研究員 高見知里技術支援専門職
29	ワークショップ	Field Hack TONO	2016年11月4日 - 6日、19日 - 20日	岩手県遠野市	小林茂教授
30	ワークショップ	平成28年度 文化庁メディア芸術連携促進事業 ワーク ショップ「メディアアート文化史構築のためのデータベ ースとインターフェイス研究会」	2017年1月22日	東京都新宿区	松井茂准教授
31	講演	Fab Meetup Kyoto vol.7	2016年6月29日	京都府京都市	James Gibson 准教授
32	講演	これからの創造のためのプラットフォーム 「川瀬慈 映像人類学講義」	2016年5月28日、6月4日	岐阜県大垣市	前林明次教授 瀬川晃准教授
33	講演	IAMAS 図書館長による大人のためのブックトーク	2016年6月18日、7月16日、8月13日、 9月10日	岐阜県岐阜市	小林昌廣教授
34	講演	伝統芸能ことはじめ - 名作から知る伝統芸能の楽しみ方	2016年6月11日、7月10日、9月11日、 12月10日、2017年1月7日、3月5日	京都府京都市	小林昌廣教授
35	講演	特別講義「国家・憲法(改正?)とクリエイティビティ」	2016年6月25日	岐阜県大垣市	三輪眞弘教授
36	講演	「オスプレイの音」体験+報告会2	2016年7月3日	岐阜県岐阜市	前林明次教授
37	講演	「あ・新宿 - スペクタクルとしての都市」展 ギャラリートーク、関連上映会&トーク	2016年6月21日、7月8日	東京都新宿区	松井茂准教授
38	講演	Art Award IN THE CUBE 2017 会場見学・説明会 in 岐阜	2016年6月19日	岐阜県岐阜市	三輪眞弘教授
39	講演	「高松次郎:アトリエを訪ねて」展 トークイベント	2016年6月25日	東京都新宿区	松井茂准教授
40	講演	Fab Meetup Kyoto vol.8	2016年8月24日	京都府京都市	八嶋有司研究員
41	講演	岩瀬崇 書展「在る部屋」- 対談「岩瀬崇 X 前林明次」	2016年9月3日	岐阜県岐阜市	前林明次教授 瀬川晃准教授
42	講演	Möwe サロン大阪 Vol01 - ポストオープンインベーショ ンの実態 -	2016年9月8日	大阪府大阪市	小林茂教授
43	講演	Open Hardware Summit 2016	2016年10月7日	アメリカ合衆国オレゴン州 ポートランド	小林茂教授
44	講演	シンポジウム「メディア・アートとは何か? IAMAS20周 年から考える」	2016年10月10日	愛知県名古屋市	三輪眞弘教授 松井茂准教授
45	講演	これからの創造のためのプラットフォーム 公開レクチャー 「フィールドの音を録る - きこえる音から、きこえない 音まで」	2016年11月5日	岐阜県大垣市	前林明次教授
46	講演	シンポジウム「戦後日本におけるマス・メディア受容と 現代芸術の文化学」	2016年11月12日	京都府京都市	松井茂准教授 伊村靖子講師 赤羽亨准教授
47	講演	Ogaki Mini Maker Faire 2016 前夜祭トークセッション	2016年12月2日	岐阜県大垣市	小林茂教授
48	講演	今野勉+松井茂+飯田豊「いま、テレビになにが可 能か その草創期から問いなおす」	2016年12月17日	東京都千代田区	松井茂准教授
49	講演	ブラッキー中島特別講義 「京都美山自転車の聖地プロジェクト」	2017年1月24日	岐阜県大垣市	赤松正行教授
50	講演	『Prototyping Lab 第2版』出版記念イベント - 「自家製」テクノロジーが醸成する世界観	2017年2月06日	東京都千代田区	小林茂教授
51	上映	イメージフォーラム・フェスティバル2016	2016年4月29日 - 5月6日	東京都渋谷区 京都府京都市 愛知県名古屋市	前田真二郎教授
52	上映	「岐阜・風景映画」プロジェクト 2016	2016年6月11日 - 7月9日 (全4回)	岐阜県大垣市	前田真二郎教授
53	上映	ALA-SCOPE 02「映像レーベル・ソルコードの作家たち」	2016年6月18日、7月22日、8月26日、 9月16日	愛知県名古屋市	前田真二郎教授 松井茂准教授
54	上映	文化庁メディア芸術祭新潟展「記憶と記録のモノ語り」	2016年10月22日	新潟県新潟市	前田真二郎教授
55	上映	IAMAS ARTIST FILE #04 ALIMO・若見ありさ 「描く・動く/芸術とアニメーション」	2017年3月4日 - 3月5日	岐阜県岐阜市	前田真二郎教授
56	その他	あしたのコミュニティーラボ「情報科学芸術大学院大 学 [IAMAS] のハブ機能」	-	-	金山智子教授 小林茂教授



IAMAS 産業文化研究センター (RCIC) スタッフ

2016年度

RCIC センター長	金山智子
教員	小林茂 瀬川晃
研究員	八嶋有司 高尾俊介
技術支援専門職	高見知里
情報支援専門職	伊藤晶子 星卓哉

IAMAS Annual Report 2016
—産業・地域連携報告—

2017年2月発行

監修	金山智子
編集	高尾俊介
デザイン	小島邦康 (Artical inc.)
発行	IAMAS 産業文化研究センター (RCIC)
印刷	サンメッセ株式会社

IAMAS 産業文化研究センター
〒503-0807
岐阜県大垣市今宿6丁目52-18 ワークショップ24
www.iamas.ac.jp
0584-75-6606

